

# 東京陵水

賀正  
平成28年元旦  
陵水会東京支部役員一同

## 平成二十七年東京支部総会

### 新支部長に小梶清司氏(大18)就任

### 母校飛躍の年、陵水会挙げて応援を!

## 年頭所感

東京支部長

小梶清司(大18)



東京陵水の皆さま、明けましておめでとうございます。昨年七月の支部総会で支部長をお引受することになりました。これまで五年に亘り幹事長として守る谷前支部長他、執行部の皆さんと共に微力ながら支部の運営に携わってまいりました。この間、会員の皆様には幅広く色々とお世話になり有難うございました。

1面	年頭所感(小梶支部長)
2面～4面	二十八年・二十七年総会
5面～9面	「こんにちは」
10面	新支部構想と 母校の行方
11面～15面	主張と趣味
15面	陵水会クラブOB報告
16面～18面	陵水会東京支部 クラブ活動
19面～20面	同期会報告
21面	会費納入者一覧
22面	広告・奥付

連まで異論を唱える事態となり現在に至っています。

大学教育の在り方を巡っては、古来色々な視点からの議論があるかと思いますが、現状がそのまま肯定されるものでも決してなく、時代の変化に対応して在るべき姿を追求する飽くなき努力が必要なのは言うまでもありません。特に母校のように近年大きな変革もなく、既存学部の拡充で何とか時代の波を掻い潜って来た大学においては、尚更と言えるかも知れません。

今般、佐和学長の強いリーダーシップの下、開学以来初の新学部「データサイエンス学部」構想が浮上し、現在着々と来年四月の開学に向け準備が進んでいることは誠に頼もしく、また嬉しいことであり、本格的なITOT時代に突入しつつある我が国にあって、実業界における母校の評価を一層高からしめることを確信させるものでもありません。こうした動きの中に在って、

また別の話としては、文科省が六月に出した「教育・人社会学部の見直しについて」の通知が各界から、大学教育の本質を理解しない極めて不適切なもの、と不評を買って、影響の大きい地方大学を代表する形で、佐和隆光学長もテレビや雑誌に度々登場され、堂々とした論陣を張られました。文科省は慌てて釈明に追われましたが、経団

また別の話としては、文科省が六月に出した「教育・人社会学部の見直しについて」の通知が各界から、大学教育の本質を理解しない極めて不適切なもの、と不評を買って、影響の大きい地方大学を代表する形で、佐和隆光学長もテレビや雑誌に度々登場され、堂々とした論陣を張られました。文科省は慌てて釈明に追われましたが、経団

また別の話としては、文科省が六月に出した「教育・人社会学部の見直しについて」の通知が各界から、大学教育の本質を理解しない極めて不適切なもの、と不評を買って、影響の大きい地方大学を代表する形で、佐和隆光学長もテレビや雑誌に度々登場され、堂々とした論陣を張られました。文科省は慌てて釈明に追われましたが、経団

また別の話としては、文科省が六月に出した「教育・人社会学部の見直しについて」の通知が各界から、大学教育の本質を理解しない極めて不適切なもの、と不評を買って、影響の大きい地方大学を代表する形で、佐和隆光学長もテレビや雑誌に度々登場され、堂々とした論陣を張られました。文科省は慌てて釈明に追われましたが、経団

また別の話としては、文科省が六月に出した「教育・人社会学部の見直しについて」の通知が各界から、大学教育の本質を理解しない極めて不適切なもの、と不評を買って、影響の大きい地方大学を代表する形で、佐和隆光学長もテレビや雑誌に度々登場され、堂々とした論陣を張られました。文科省は慌てて釈明に追われましたが、経団

また別の話としては、文科省が六月に出した「教育・人社会学部の見直しについて」の通知が各界から、大学教育の本質を理解しない極めて不適切なもの、と不評を買って、影響の大きい地方大学を代表する形で、佐和隆光学長もテレビや雑誌に度々登場され、堂々とした論陣を張られました。文科省は慌てて釈明に追われましたが、経団

また別の話としては、文科省が六月に出した「教育・人社会学部の見直しについて」の通知が各界から、大学教育の本質を理解しない極めて不適切なもの、と不評を買って、影響の大きい地方大学を代表する形で、佐和隆光学長もテレビや雑誌に度々登場され、堂々とした論陣を張られました。文科省は慌てて釈明に追われましたが、経団



「遠霞む琵琶の湖♪」

にした別途懇親会を幹事さんにお願ひして企画して貰いました。主にフェイスブックでの繋がりを基点に、口コミ効果もあり、何と七〇名の若人が一堂に会し楽しく交歓することが出来ました。参加者の多くはかつて総会参加の経験は無く、支部名簿にも登録されていない皆さんでした。今年の支部総会はこうした人達にも積極的に呼びかけ、母校の新たな門出を満場の皆様と共に盛大に祝したいと思ひます。引き続きの皆様からのご支援・ご鞭撻を切にお願ひ申し上げます。

この新しい年が会員の皆様にとって幸多く、また素晴らしい年となりますよう心から祈念申し上げます。

# 平成二十八年支部総会の概要について

開催日時 平成二十八年

七月二日(土)午後五時

会場 上野精養軒

(台東区上野公園四一五八)

記念講演 『幕末から明治維新

(孝明天皇を中心とした) (仮

題) 講師 竹田恒泰氏(作家

タレント)

講師・作家の竹田恒泰先生は

昭和五十年、旧皇族・竹田家

にお生まれになり、慶應義塾大

在学中より環境学の講演活動を

始められました。平成十八年

は『語られなかった皇族たちの

真実』(小学館)で山本七平賞

を受賞されましたが、他にも『エ

コマインド〜環境の教科書』(ベ

ストブック)、『皇室へのソボク

なギモン』(扶桑社、共著)、『旧

皇族が語る天皇の日本史』(P

HP新書)など多数の著書があ

ります。

現在は年間二〇〇本以上の講

演を行っておられるほか、タレ

ント活動、執筆活動と超多忙な

中で講演をお引き受けいただき

ました。

講演では、仮題ですが『幕末

から明治維新』についてお話し

いただく予定です。幕末に関す

多くありますが、武士の考え

に基づく視点が多いのは議論の

余地がありません。孝明天皇の

側から見た幕末のお話が伺える

のではないかと大いに期待して

いるところです。

当番幹事挨拶と活動状況について

今回は昭和五十五年卒業の大

学二十八回が当番幹事を務めま

す。前回支部総会には十四名の

同期が参加し、総会直前準備の

お手伝い、総会二次会の運営を

担当しました。総会終了後、大

学二十七回の先輩からキメ細か

な書面による引継ぎをいただき

き、同期会を翌八月から三ヶ月

連続で開催しました。

大学卒業後三十五年、学生時

代に面識のなかった人、卒業後

初めて再会する人等がいる中、

同期会に集えば気分は学生時代

に瞬時に戻り、三回の会合を通

じて、一人と一人のつながりが、

複数のつながりになり、同期の

絆になっていくのを実感してい

るところです。

総会の講演者は決定しました

が、これから総会全体のコンセ

プトやプログラム、役割分担等

順次具体化しつつ本番に向け漸

す。現状連絡の取れる同期が二

十名程度おりますが、総会本番

には同期参加二十名以上を目指

して、引き続き一名でも二名で

も同期会メンバーを増やしてい

きたいと考えております。

支部総会につきましては、参

加者もここ数年二〇〇名を超え

る規模となり、会員交流の場と

して大きな役割を果たすよう

なっております。最近では

女性OGも増加し、陵水会東京

支部総会で出会った卒業生同志

の出会いから結婚につながる事

例が既に三例もあると伺ってお

ります。先般、フェイスブック

のオフ会に我が同期も三名が参

加してまいりましたが、六十名

を超える卒業生を集める企画力

には大いに感銘しました。当番

幹事としましては、竹田先生に

講演をお引き受けいただいたこ

とも若手の参加を意識した選定

でありましたが、今までもまし

て幅広い年代層の皆様にご参加

いただくべく幹事活動を展開し

てまいりたいと思います。

四月には総会のご案内状(出

欠の返信ハガキ同封)をお届け

する予定です。会員の

皆さま一人でも多くの会員の皆

様にご参加いただきますようお

願い申し上げます。

奥田慶一(大28)記

参加者二〇〇名以上が定着化した画期的二十七年総会

佐和学長の新学部設置構想が明確に

終日の雨空。しかし出足はよ

く開催時間前から受付は多忙と

なった。

七月四日(土)、午後五時から、

平成二十七年「陵水会東京支

部総会・懇親会」が昨年に続い

て上野精養軒で開催された。本

年幹事担当は大学二十七回

(昭和五十四年卒)の諸氏。

定刻五時、グリーンクラブ

OBメンバーの学歌が荘重

に流れたあと、小椋清司幹

事長(大18)司会により総

会は開幕した。当番幹事を

はじめ各回世話人の努力も

あって過去最多となる総勢

二四〇名の参加を見た。

来賓に佐和隆光滋賀大学

学長、戸田一雄陵水会理事

長のご出席。母校から写真部、

承認された。

第二号議案「平成二十六年

度活動方針並びに収支予算」につ

き、小椋幹事長、脇阪事務局長

が説明、全員の承認を受けた。

第三号議案「役員等の改選」

は、今期は役員改選期に当たり、

新しい役員陣容案を守谷支部長

が発表。新しく東京支部長とし

た。

第一部総会議事。議長鈴

木重成氏(大7)の進行に

より、第一号議案「平成二

十六年度活動報告ならびに

収支決算報告」が小椋幹事

長と脇阪事務局長(大

21)から行われ、岡田憲治

監事(大18)の監査報告の

発表の後満場一致の拍手で

閉会された。

第二号議案「平成二十六年

度活動方針並びに収支予算」につ

き、小椋幹事長、脇阪事務局長

が説明、全員の承認を受けた。

第三号議案「役員等の改選」

は、今期は役員改選期に当たり、

新しい役員陣容案を守谷支部長

が発表。新しく東京支部長とし

た。

第一部総会議事。議長鈴

木重成氏(大7)の進行に

より、第一号議案「平成二

十六年度活動報告ならびに

収支決算報告」が小椋幹事

て小梶清司氏（現幹事長）、幹事長に竹森二郎氏（大19）、副幹事長和田博之氏（大19）、同じく重田博氏（大26）。退任が現支部長守谷貞夫氏、現副幹事長大八木勉氏、同じく長井和男氏。本部評議員は新任が和田博之氏、重田博氏。退任が大八木勉氏、長井和男氏。以上につき全員の承認を受けた。

次に新支部長の小梶清司氏と新幹事長、竹森二郎氏から新任の挨拶があり、支部会員の支持と協力を求めた。

第二部、記念講演。今年は同窓の鯖田豊則東京国際大学教授（大27）による「お金の社会学」のテーマによる講演。講演要旨は①お金とどう付き合うべきか、②日本のお金の製造技術の素晴らしさ、③高齢化社会における信託の活用、三項目について金融機関勤務の経験、実績を踏まえて、「お金」がどう作られ、如何に取引され、いかに財産の運用増殖に繋がるのか、また高齢化時代に伴う老後の所得確保と運用をどう考えたらよいか、など実地的、現実的な講演をしていただいた。

第三部、懇親会。乾杯を戸田一雄 陵水会理事長が挨拶に併せて発声。各テーブルごとに、日

頃の御無沙汰を互いに謝しつつ旧交を温める会話が飛び交い、会場は一気に盛り上がった。

アトラクションとして、陵水詩吟同好会（岳精流新陵教場）のメンパーと神翠流煌弘会會長・小谷野煌弘氏による詩吟と剣舞「金州城下の作」「大楠公」が披露され、その迫力が満場を沸かせた。現役学生の代表として五名の若々しい意気に燃えた後輩が壇上で一人一人自己紹介をした。

二十七年当番幹事各位の紹介と健闘、二十八年当番幹事諸氏の紹介と決意表明に対し絶大なる拍手が送られた。

恒例の「琵琶湖周航の歌」「彦根高商校歌」合唱は往時を偲ぶ若き歌声が会場内に流れた。盛り上がるの締めくくりは恒例のエアール。ヨット部高田大樹氏（大49）の発声が会場内に響き、これに全員の拍手が和し紅潮した雰囲気となった。中締めが中辻喜蔵氏（本21）の手で行われ、会は盛況の裡に午後八時過ぎに閉会を迎えた。

平成二十六年年度収支報告

○財産目録(単位円・以下同じ)、現金 二二、六三〇

普通預金 一、二〇九、一七六  
郵便預金 九四〇、七五二  
定期預金 一、〇六〇、〇〇〇  
合計 三、二三二、五五八

○貸借対照表  
現金預金 二、一七二、五五八  
基本金引当金 一、〇六〇、〇〇〇  
合計 三、二三二、五五八

【借方】  
前受金(注二) 六五四、〇〇〇  
基本金 一、〇六〇、〇〇〇  
繰越金 一、五一八、五五八  
合計 三、二三二、五五八

（注一）前受金…翌年度の年会費受け入れ分

○収支計算書  
【支出の部】  
総会費 二、一一六、〇〇七  
運営費 九六、九九七  
印刷費 三三七、九五二  
通信費 四三八、〇四六  
広報活動費 三八、六〇八  
編集費 一〇〇、〇〇〇  
事務用品費 二、三九六  
交通費 一、九〇〇  
雑費 四七、三三二  
次年度繰越金 一、五一八、五五八  
計 四、六九七、七九六

【収入の部】  
年会費収入 一、三二六、〇〇〇  
総会費収入 一、三〇九、〇〇〇  
寄付金収入 九四、〇〇〇  
新聞広告収入 二二〇、〇〇〇  
本部活動助成金収入 一二七、五〇〇  
雑収入 三、三三二  
前年度繰越 一、一八七、〇〇七  
計 四、二六六、八五九

年会費納付者 四四二人  
（前期四六〇人）  
総会出席者数 若干増  
※運営費は役員幹事会への若手補助、当番幹事・会議費用一部補助。広報活動費はホームページメンテナンス費・九〇周年行事本部取材経費。交通費は就職相談会へ若手派遣費（本部折半）。

平成二十七年年度収支予算書  
【支出の部】  
総会費 二、一五〇、〇〇〇  
運営費 一〇〇、〇〇〇  
印刷費 四〇〇、〇〇〇  
通信費 四五〇、〇〇〇  
広報活動費 一〇〇、〇〇〇  
編集費 一〇〇、〇〇〇  
事務用品費 一〇、〇〇〇  
交通費 二〇、〇〇〇  
雑費 五〇、〇〇〇  
次年度繰越金 一、三四八、七九七  
合計 四、七二八、七九七



相続税対策・申告、贈与税申告のご相談ならば

税理士法人ファースト会計事務所

法人税・所得税(確定申告)・相続税・贈与税

〒140-0013 東京都品川区南大井6-17-15-401

電話：03-3766-5081 Fax：03-3765-1036 HP：http://www.tax1st.jp/

代表社員：公認会計士・税理士 松 澤 進 大学38回・平成2年卒

ウインドサーフィン部第6代主将 会計士同好会昭和63年度会長

【収入の部】

年会費収入 一、四五〇、〇〇〇  
 総会会費収入 一、四五〇、〇〇〇  
 寄付金収入 一〇〇、〇〇〇  
 新聞広告収入 二四〇、〇〇〇  
 本部活動助成金収入

一三三、〇〇〇

雑収入 五、〇〇〇

前年度繰越金 一、三六〇、七九七

合計 四、七二八、七九七

※交通費は就活相談会への若手

OB派遣交通費の来期より本

部全額負担へ変更で減額。

新入会員の感想

「東京支部総会に参加して」

●この度は、陵水会東京支部の総会にお招きいただき、誠にありがとうございました。

総会は、私が社会人になってから、初めての母校の諸先輩方とお会いする機会でした。これほど大勢の方がいらつしやるとは思わず、常に緊張しておりますが、皆様が暖かく迎えてくださったお陰で、有意義な時間となりました。

様々な業界でご活躍されている方が多く、大変心強く感じました。加えて、自分も頑張らねばと気持ちが引き締まる思いでした。

またお会いできる事を楽しみに

しております。これからもうぞよろしくお願い致します。

李 文哲

●私が東京支部総会に参加したきっかけは、以前からお世話になっていたOBの方々からお誘いを頂いた事でした。

実は、最初に東京支部の行事に出席させて頂いたのは当時私が3年生だった時の事です。大学で所属していたサークルが日経TESTの団体戦で一位に入賞し上京した際、東京支部の方々が設けて下さったイベントに伺い様々な先輩方と交流させて頂きました。就職活動の前線に居た私たちにとって、大変貴重な経験となったのを覚えてい

ます。その後東京支部の方々との交流は続き、先輩が彦根にいらした時に食事に誘って頂いたこともありました。また幸運にも日経TESTで連覇を果たした4回生の夏には、日経本社での授賞式で東京支部の方に再会することが出来ました。

今年の四月に入り、都内の会社に就職した私に最初に連絡を下さったのも東京支部の先輩方でした。総会当日は、以前より

多くのOB・OGと交流しながら業界研究を進める事が出来た

と思います。学生の間に世話になった方々や彦根と一緒に学んだ他の新卒学生と再会するこ

ともでき、少しほっとした一日でした。

思えば今日まで諸先輩方にお世話になってばかりの私ですが、

今後は一人の若手として東京支部を盛り上げていけるよう、努力させて頂きたいと考えております。

●一言で申し上げますと繋がりを感ずる会でした。

ゼミの同期に誘われて参加したのですが、参加して良かった

です。大学時代には話をしたことのなかった同期生と繋がりを作ることができた上に、ほんの一部ですが、滋賀大学のOBの方々ともお話ができて、大変有意義な時間を過ごすことができました。

正直な所、大学時代は同じサークル、受講している講義が同じ仲間としか話す機会が少なく自分の交際範囲が広くなかったことから、卒業し、このような形で新たに友人や先輩方とお話させて頂ける機会があることに感謝致します。

滋賀県から離れている東京でもこのような会が開かれることに、滋賀大学での繋がりがや歴史

の深さを知ることが出来る良い機会になりました。

また、このような機会がありましたら積極的に参加したいと思致します。

田畑 昇龍

(総会寸景)



盛り上がる宴席



守谷貞夫支部長（当時）挨拶



女性会員の微笑が華をそえる



現役の諸君・写真部と新聞会



新陵会の詩吟と剣舞

# こんにちは

森口 修逸氏 (大21回)

(もりぐち しゅういち)

株式会社エム・ピー・オー代表取締役。去る九月一五日(火)横浜市のオフィスを訪問しましたが、多くのお話をいただきましたが、紙幅上少なからず割愛部分があることを了承下さい。

——本日はお忙しいところ、ありがとうございます。「東京陵水」一〇三号にご登場いただきこうと思っております。ご出身は京都とか……

森口 はい。私の家は「喜志元」という京都・下河原の小さな旅館でした。谷崎潤一郎が終戦後間もなく、食べるものもない時



代で岡山から米を持って来て、これで泊めてくれと、数カ月滞在したそうです。ちょうど「細雪」を執筆していた時期です。

——谷崎潤一郎のゆかりでもあるんですね

森口 はい。「婦人画報」誌に掲載されている喜志元の写真を見ながら)これは谷崎潤一郎が泊まっていた部屋です。彼が誘って、色んな人を連れて来たんですね。歌人の吉井勇も陶芸家の河井寛次郎も遊びに来ており、彼らの作品は今も我が家にあります。その後も、能の梅若六郎(人間国宝)がよく来まし、長唄のお師匠さんの杵屋弥三郎(東千代ノ介の実兄)は三味線を置いて毎月、芸子さんに教えるにきていました。京焼きの永楽善五郎もたまに食事に来館しています。浜美枝、江波杏子は喜志元で映画化粧をして、タクシ

ーで太秦に行っていました。その後、父が病気になる「おかみ」であった母が私たちの住む横浜に来ることを決断して、妻は同居を了解してくれました。喜志元は平成二十二年に閉めています。

——そうですか。森口さんはここで生まれになったんですね。ところで、お父様はなかなか厳

しい体育会系だったそうですねが……

森口 父は、旧制中学から同志社高商を卒業したんですが、ずっと陸上部で中長距離や駅伝をやって、戦時中ではなければ早稲田で箱根駅伝に出たかったと言

っていました。横浜で両親と同じく居るようになり、私も父も初めて現地で箱根駅伝を観戦しました。私は小学校四年生から運動会前には朝六時に起こされ、実家のすぐそば、円山公園の枝垂れ桜の周りで走る練習をさせられました。それが花開いたのは同志社高校でサッカー部に入

ってからです。滋賀大の部対抗駅伝でも琵琶湖沿いの最長区間を激走しました。

——そういう老舗の旅館でお生まれになって、滋賀大を選ばれたのは何か理由がありましたか?

森口 本当は当時、喜志元で同居していた叔父が学んだ、京大の文学部が希望でした。小学校から地理が好きで、高校時代には叔父から東西交渉史の楽しさを学びました。一方、京大経済学部卒業の母方の叔父からは

「経済学部卒はつぶしがきく」と言われていました。我が人生を振り返るに「つぶしがきく」の言葉は至言であったと……。

一浪後、東大紛争もあり結果的に二期校の滋賀大経済学部に入った訳です。滋賀大入学後、

森口 就職も決まって、四回生の夏休みに行った七十日間の英国でのサマースクールとヨーロッパ旅行が大切な思い出です。往復の飛行機と到着地パリ、帰国地コペンハーゲンの各一泊のみで他は自由行動という、学生

ばかりを集めたツアーでした。就職が決まり、大学の単位は学

年必須以外はすべて取得済みだったので、家でごろごろしていました。母にはよほど目障りだったんでしょう。「そんなにご

ろごろしてるなら海外でも行っ

てきなさい」と多分、叱ったつもりだったのです。これが五月末。たまたま、直後に大学の友人から格安の旅行社のツアーを教えられました。そこで、父

親に銭湯で「母ちゃんにこんなこと言われた」と相談したところ、「言うくらいやから母ちゃんが金を出せるんやろう」と、

森口 小倉(栄一郎)教授の電子計算機入門と、さらにプログラミングを受講しました。文系では電算機の授業が少なかった時代でしたが、日立のコンピュータが計算センターに入っていたんです。

——ほかに学生時代の思い出は?

森口 就職も決まって、四回生の夏休みに行った七十日間の英国でのサマースクールとヨーロッパ旅行が大切な思い出です。往復の飛行機と到着地パリ、帰国地コペンハーゲンの各一泊のみで他は自由行動という、学生ばかりを集めたツアーでした。就職が決まり、大学の単位は学

のサッカー遊び、パリのモンマルトルの安宿での四日間、英国の学友のカルメンさんの豪邸に宿泊したマドリッド、夢の島カプリ島、フイレンツエのダビデ像やスイスの美しい山々に感動しました。旅行の終盤で、オランダの大学町ライデンの家族経営のペンションでの少しゆったりした気持ちで過ごした二日間も良い思い出です。ミュンヘンで行われたオリンピックで米独戦のサッカーも観戦しました。明日入国する国の通貨は？ ホテルは？ その国の言葉での「おはよう」は？ 準備期間がなかったため、すべて夜行列車中での一夜漬けでした。

二十八日に終わった翌日に、日立製作所が彦根に勧誘に来たんです。私は、日立ってよく分らないけれど、とりあえず経験のために行こうと……。それで市民会館の二階で説明会をやるというので行っただけです。一時間位して突然、ここに来て人は弊社に興味あると思うから試験します。と言って試験用紙を配り始めました。そんな無茶な、と思つて……。実は印鑑どころか鉛筆も持つて行つてなかつたんです。日立の人に貸してもらつてそれでやりました。試験が終わつたら、午後面接しますと……。日立本社の人事課長が来ていたんですね。「私は採用権限がありますから、ここで決められます」

森口 一人での未知の西欧大旅行は、ワクワクとトラブルの連続でした。これまで勉強した英語と地理と世界史の知識を総動員した旅行です。同志社中・高の毎朝の礼拝と聖書の知識のおかげでケンブリッジ Catholic Church に逗留中のオーストラリア人の牧師さんと仲良くなくなり、毎夕食後に訪問するとバイポールガンで「トッカータとフーガ」を聴かせてくれました。

森口 午後の面接で、お前の論文は滅茶苦茶だとポロクソに言われまして……。落とす気ならそんなに言わなくてもいいのに、この野郎！ と思ひながら一応受け答えした、それが良かったのですかね。本当は商社希望だったので、日立に正式内定する前に、御堂筋の商社をまわり一社は社長面接までいったのですが駄目でした。それで仕



方なく日立に行くことになりました。入社後は……。？

森口 まず、茨城県の日立市で十日間の新入社員研修中に、希望も無視して、名古屋営業所に配属されました。重電部門でトヨタ担当の営業をやることになりましたが、私は車に興味はなかつたし、車しか作れないトヨタから重電の注文がないから、トヨタ関連の既納製品の保守の支援業務をさせられた挙句、入社二年半で重電の営業からコンピュータへ。ただ、企画職試験で「トヨタからはコンピュータを受注すべし！」と言ひ残して異動になりました。

森口 今のお仕事の関係は……。森口 そうですね。昭和五〇年九月からコンピュータの営業になりました。普通、コンピュータに配属されたら三〜六カ月位本社でちゃんと教育を受ける訳ですが、私の場合は名古屋営業所のお客様向けの教育センターで、お客様と一緒にコンピュータ教育という促成栽培でした。私にとつての最大の成果は教育センターの先生を嫁さんにしたことでした。嫁さんはその時は入社前で、五年後のことです。

森口 三回生の期末試験が二月

森口 午後

森口 午後

森口 午後

## 経営再建コンサルタント協同組合

理事長 長井和男 (大22回)  
公認会計士

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-5-4 共同ビル(八重洲口)505

TEL 03-5255-3511 FAX 03-5255-3512

E-mail : nagai@sai-ken.or.jp

ました。

——教育センターには色々お世話になったんですね

森口 はい。途中からコンピューター営業に異動で大変でした。担当する中小型コンピューター

を販売するために、農協、市役所、流通等へ東海四県をあちこち本場に自分の足で歩きました。

愛知県内の市役所関係では全然相手にされなくて……。たまた

ま、その関係で市立病院へ行く話を聞いてくれることが分

りました。しかし一年半位でコンピューター営業から、さらに

システムエンジニア（SE）に異動になる訳です。名古屋市立

緑市民病院はSEとして対応したのですが、病院の人から、「貴

方が熱心であることはよく分かった、ついては、医療が分かっ

ている人を連れて来てくれ」と言われました。自分が医療のS

Eなのに……。ガツクリとはしました

ましたが、本社の医療システムの人に客先で講演してもらった

んです。これで一発で決まった。分かった！もうあなたに決

めた、と。緑市民病院から注文頂いたんです。

——やりましたね！

森口 日立の営業所内では病院システムというのは初めてでし

た。ただ、国の制度変更がある

都度システムを修正していかな

いといけないんです。毎年の医療費改訂がえらい大変でこんなことやっておれないと思いま

した。医療システムは厄介ですね

森口 その後、愛知県立の四病院を一気に取りましたし、県内

四か所の医師会等から人間ドック・健診・臨床検査システムを、

SEの私が提案し、営業は価格を交渉する分担で取っていきま

した。最大二〇人位の部下を抱えてきましたが、全員外注先の

人達でした。一方、実践経験を生かし情報処理資格の最難関の

特種情報処理技術者試験にも合格しました。

——この後、トヨタから日本初のシステムを受注されたのです

ね

森口 トヨタ自動車が五〇周年で新しいトヨタ記念病院を作る

ことになり、この病院に日本初の「臨床検査自動ラインシステ

ム」を提案して受注・開発したんです。前例のない業務の要求

仕様を定義して提案する、難しいシステムでした。血液や尿が

入った試験管の検体を入院・外来併せて一日に五〇〇本処理す

分析して三〇分以内に自動的に

結果を報告せよという顧客（病

院からではなくトヨタ自動車の生産技術部門）からの要求仕様

でした。試験管立てを空気浮上

送する。顧客の病院担当及び検査機器メーカーとの業務の打

合せは私が取り纏め、日立社内の重電のチームと協力して工夫

を加えて、商品として完璧なものを作りました。このシステムを

管理するのは日立がトヨタから初めて受注した大型汎用コンピ

ューターでした。完成間近に豊田英二会長が視察に見えました。

このシステムは、私が日立退社後も十年間稼働し続けました。

苦勞して良い仕組みを作った証拠だと誇りに思います。

——最高のヒットですね

森口 私は、これをトヨタの病院だけじゃなく多くの病院にも

販売できるように、システムの機能や処理の方法を、導入の際

に取捨選択できる汎用的なソフトウェアとして作ったんです。

再販し、売上をN倍化できると思っていました。けれどそれは

殆ど認めてもらえなかった。これは名古屋で勝手に作ったもの



で、本社はタッチしていかないよ

——森口さんが考えていること

森口 名古屋ではいろんな経験を

をしました。平成年に本社へ転職になるんです。当時は新

川崎のツインビルにソフトウェア工場の本社があり、そのビ

ジネスシステム開発センターへ転職して、戦略情報システム（S

IS）のコンサルタントとして経営戦略の世界へ転進しました。

これまでの経緯もあって、医薬品卸業界を希望しました。本

当にやりたい放題やらしてもらった。必要なら米国でも行けるよ

ということ、実際米国にも視察に出張しました。当時、医薬

品卸は三〇〇社程あったのです

が二桁に集約されていく過程にあり

ました。私は静岡県にある

医薬品卸会社の会長・社長や役員向けに一年間かけて、これ

らの医薬品卸は如何にあるべきか？ というコンサルをやり

ました。調査や情報収集のために、医薬品メーカー、医薬品卸、医

師会はもとより、国会図書館へ行ったり、厚生労働省に医薬

業のヒアリングもしました。米

国への出張では現地の状況を調査し、ミネソタ州立大学では

インフォームド・コンセントという思想を聞いて驚きました。当

時の日本では癌は本人に知らせたらダメだよという時代です。

そういう時に、治療方針を話し合うために、本人にインフォー

ムした上で同意を取る、今では常識ですけど……。

——コンサルテーションの資料は森口さんが纏められたんです

か？

森口 はい。医薬品卸はお医者さんのところへモノを運ぶだけ

ではなく、地域社会へ眼を向けなければいけない、そのために

こういう経営方針と情報システムが必要で、と。

——日立でのご活躍が良く分かりました。その後、転職された

り、創業されたりするきっかけは何かおありになりますか？

森口 本社での仕事には満足し

て、その時は四〇歳位でしたがこれを一生の仕事としてやって行くのかな？ との気持ちと、もう一つは一年間東京にいますと色々な声が聞こえてきます。たまたまインフォネクスという会社の日経の記事が眼に止まったんです。インフォネクスは真藤さんの「民活」で出来た、NTTとベンチャーの合併で、ネットワークSIを標榜する会社でした。

その総務部長に会ったら、取締役が出てきて、是非入社してくれと……。給料は上げる、生活レベルは日立以上にするために家は社宅扱いにする……。平成二年当時はバブル絶頂期でした。名古屋からワゴン車で家族四人揃って横浜へ引っ越ししました。今から思えば、幌馬車で西部へ行くような気分でしたね。

通信技術はデジタル化が始まり、コンピュータもUNIXやパソコンが台頭してオープン化が進み始めた頃です。日立やIBMの考えるネットワークは大型汎用コンピュータがあり、その下に多くの端末装置がぶら下がっているんです。ところがインフォネクスではネットワークが先ずあって、この下に汎用コンピュータやUNIX、パソコン

コンがマルチベンダでぶら下がる、発想が全く逆ですね。——インフォネクスには何年位いらっしやったのですか？

森口 四年です。しばらくしてバブル崩壊があり、業績が急速に落ち込みました。私はネットワークSIに、医療分野のアプリケーションを付加して業績回復を目標見ました。それまで電線だけ売っていたのを、その上に医療の業務を乗せて売ろうと思った訳です。それで情報収集に(財)医療情報システム開発センター(MEDIS)へ通い始めました。残念ながら志半ばにして会社が危なくなった時、MEDISの人が、お前、医療を良く知っていたなと声をかけ、リコーに紹介してくれたんです。実は、その人は元日立の人でした。

——あー、それでリコーへ森口 リコーが新規事業を立ち上げるので人を募集しとるよ、行け！ と言われました。不況の時代でしたので、医療情報の大家でもある中央研究所の副社長に会わせられ入社を了承されました。リコー入社は平成六年で

ました。そのプロジェクトは、医療等の撮影フィルムを記録できる大容量の記録媒体にUNIX・Windows・Apple共通の記録方式に対応して、改ざん防止セキュリティ方式を付加・標準化したものを開発するプロジェクトです。その技術をコアとして、リコーは医療分野に進出するという戦略でした。当時の技術では、大容量記録媒体は

光磁気ディスクが本命で、そのドライブはリコーが作っていました。しかしハードウェア技術の進化は猛烈で、機器・媒体そのものは意味がなくなってきた。さらに標準化は米国の反対もあり停滞して戦略に影響を受けました。同じ時期から産業医科大学にゆき、「医用画像を含む経年の健康管理情報を蓄積・活用する」ための実証実験を国プロジェクトとして企画・開発しました。健診情報と、じん肺等のX線画像を光磁気ディスクに格納し、手軽で迅速に扱えるようになれば産業保健にも大いに貢献できるということでした。健康情報データベースという切り

口が出てきたんです。後のPHR(Personal Health Record: 個人健康記録)の考え方の源となりました。

——森口さんの中で蓄積されてきたものの集大成ということが起業のきっかけですか？

森口 リコーでは重要な国プロジェクトに参画し多くの優れた先生と面識を得て、保健医療分野の国際戦略と出会い、自身身、情報セキュリティ技術の重要性の理解と先進性を確保することができたと思っています。



しかし、北九州の実証実験も大きな成果が期待できるもの、制度面から、時間がかかることが分かり、また大会社では窮屈な思いもしたので独立しようと思いました。

——そうでしたか  
森口 応援してくれる人が何人もあり、嫁さんもいいんじゃない、と言ってくれたので平成十

四年六月に独立しました。保健医療分野の個人情報保護と情報セキュリティのマネジメントに関して、①コンサルテーション

②出版③講演、仕事はこの三つです。当初はコンピュータやSI(エス・アイ)システム・インターネットションシステム(開発)に関わるものと思っていましたが、翌年たまたま個人情報保護法ができた。これはすごいインパクトで、情報システム開発とは分野が異なっていました。個人情報マネジメントできてると認定された会社・団体等にはP(プライバシー)マークが与えられます。同様に、情報セキュリティのマネジメントができてると認定された部門・会社・団体には、ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)認証が与えられます。私は認証に合格するためのコンサルテーションや内部監査の支援をしています。審査をやる資格として、ISMS主任審査員の資格をとりました。医療情報に関しては熟知していましたが、マネジメントシステムに関しては経験がなく、資格

だけではコンサルテーションの実践ができないため、受講したISMSの教育機関の優秀な講

師の方と気が合い、実際に顧客先で協力いただきました。さらに、川重系の会社と協業し、ISO9000の専門家の方が特に、一生懸命協力してくれました。二〇くらいの健診機関や日立製作所の七つの病院、東芝病院等のPマークやISMS認証取得を支援しました。また、医学研究所のような先端技術の施設のISMS認証取得を長期間コンサルしました。

——お話の中でPHRのことが時折出てきますが……

**森口** これまでやってきたことの集大成のような位置づけになります。平成二四年にはPHR協会を設立し、理事に就任しました。PHR(Personal Health Record)は経年の個人の健康情報データベースなんです。医用画像も含まれます。これまでの健康状態はこうだから、こういう時はこういう薬が効きますよ、またこういう傾向があるから近々にこういう検診を受けるのと良い、というようなサービスも提供できることを目指しています。さらに重要なことは、これらの健康情報を集積して自由に活用し、国民や人類全体の健康増進・医薬品の開発の資料に

役立つことです。色々な時に様々な医療機関で受診したデータを一つに繋ぐためには広範囲に名寄せができる必要があります。マイナンバーの考え方が重要になります。また、機微な個人情報のは必須です。PHRはこのような個人健康情報が蓄積されるデータベースです。これはいわゆるビッグデータで、滋賀大で新設されるデータサイエンス学部の領域に含まれるべきものです。——最近、森口さんが大学改革のことで学長にお会いになられ、色々なお話をされたと同つてお

役立てることです。色々な時に様々な医療機関で受診したデータを一つに繋ぐためには広範囲に名寄せができる必要があります。マイナンバーの考え方が重要になります。また、機微な個人情報のは必須です。PHRはこのような個人健康情報が蓄積されるデータベースです。これはいわゆるビッグデータで、滋賀大で新設されるデータサイエンス学部の領域に含まれるべきものです。——最近、森口さんが大学改革のことで学長にお会いになられ、色々なお話をされたと同つてお

あぐねておられるように感じました。私は、データサイエンス学部は文系の倫理観にあふれた学部でもあり、技術に偏重した理系の学部ではなくしたい。決して文系・理系に偏重した学部ではないと主張して、学長のお気持ちとも一致しているのを感じました。大学から帰るときにタクシーに乗りましたが、運転手さんは学長が前日、出演されたテレビを見ておられ、常日頃、彦根市民として学長には期待しているとお話されました。

動・進化する社会環境・技術環境へ対応できる、そういうことを是非やってほしい、そのためには何度でも何時でも大学に戻り教育や意見交換を出来る場を提供することを考えてほしい、ということでした。社会で実践経験を積んだ滋賀大OBが松下村塾みたいなのを作って、また彦根へ帰っておいで、しごいてやるよ、それでまた社会へ戻って活躍してこい……と。医療分野では、関連する技術要素を海外に販売拡大するばかりでなく、日本の優れた医療技術や制度を海外の人々にも紹介し、提供する活動があります。滋賀大も、医療や金融・証券を含むビッグデータの海外戦略を持ち、特にアジア諸国のお役立ちを目指すべきだと思っています。

——本日はお忙しいところ貴重なお話をいただき、ありがとうございます。ありがとうございました。

## スタッフ募集

陵水会東京支部機関紙「東京陵水」の編集スタッフにご参加しませんか。発行・年一回の編集作業です。経験不問。

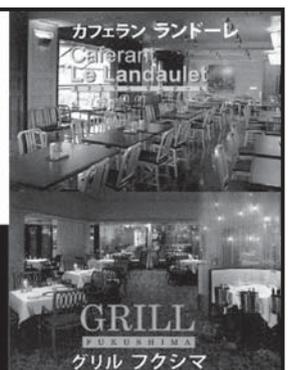


ご宴会・ご婚礼・出張料理  
カフェランランドーレ・グリルフクシマ



# 養精軒

〒110-8715 東京都台東区上野公園 4番58号  
TEL 03-3821-2181(代) FAX 03-3822-1330  
<http://www.seiyoken.co.jp> 年未年始以外年中無休



# 新学部構想と 母校の行方

平成二十九年度にビッグデータの分析、活用の担い手を育成することを目標に「データサイエンス学部」が彦根に設置される。

この新設を巡って会員諸氏（支部役員・総会出席者）の考え方を探るべく次の設問により意見を聴きした。

①文科省の通知「国立大学は人文社会学部の見直し、策定、その上で組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組んで貰いたい」について。

「組織の廃止」については否定的な意見が多い。

転換への思考は議論が十分尽くされた結果とは思えない。「社会的要請」とは何処から出た要請なのか。人文社会学部は、即社会に役立つというのではない、実学にとらわれなくて、社会科学を学ぶという学問、研究として存立している。しかし人文社会学部は今後の社会の進歩変化へ向けて社会的要請の高い分野に前向きに対応すべきと

の見解も根強い。

この通知を「暴論」として怒りもあるが、即座に人文社会学部の廃止と拡大解釈するのも問題だ。

②「データ・サイエンス学部」の印象はどうですか。

多くは好意的にとらえている。文系の中に理系を設置することにメリットがある。時宜を得た構想で、社会の動きを先取りしている。新学部の名称が今日的だ。素晴らしい専門の教授陣と学生、カリキュラムの高度化を期待する。

しかし内容を突き詰めて取り上げていくと、理系と文系のはざまで判りにくい。扱うデータの入手、研究対象として活用の仕方にイメージが浮かばない。どのような学習が展開されるのか想定が難しい。社会的要請に具体的にどうこたえるのか。など熟慮を要する問題がある。

③新設学部と経済学部を対比して期待すること。

期待するところが多い。IT・数学に人材の誕生。現実に合わせた理論の学習と外部との情報交換による予知予報技術の獲得。今後に向けては優秀学生の獲得。カリキュラムの充実による高校生、受験生への発

信。ビッグデータの活用。現在と次元の違うところからのレベルアップ。更には新学部からの輩出者が増えて、知名度、評価の引き上げに期待。

④経済学部が財政的にも難しい立場にあるが、組織、陣容、学生の規模からみての見解。

現状を把握する材料に欠けると言うことで明確な意見が得られなかった。

彦根高商の伝統を活かして創立の意義を見直す。母校への寄付の貢献度を明確にしたり、教員の担当を増やす事も一考。特色を鮮明にしてその保持。教育のクオリティの抜本的見直し。

⑤三学部になり同窓会の変容もテーマになると考えられるが、

同窓会（仮称）と陵水会の併存も考えではない。ただし大学の規模が変容していくことを考慮し、その対応を普段から考えておく必要がある。

⑥将来的に行政の効率化の一環

として、国立大学の併合が問われる時期もあるが、母校の対応はどう希望しますか。

この問題は何回も取り上げられ、その都度しぼんでゆく過程を踏んできた。できれば現状を充実したものとして併合は避けたいのが大方のところである。

行政の効率化と教育は相いれない。伝統と特色を大事に。さらにと光る存在であつて欲しい。また大きな流れとして併合は賛成だが相手による。新学部の社会的評価を得てからの併合を考える。理工学部、医学部が無いのが併合の道筋になつてしまう。

併合を肯定的にみる意見としては、併合は時代の流れだから存在価値を高めておく。特色ある理系大学、滋賀医大、滋賀県立大との併合を考える。合併による大型化で共通単位の取得、教育の質的向上。

アンケートへの回答の形で提示したが、問題の性質上、票数の多少で纏めるものではないので、回答者の意見を集約した。

回答のまとめ方には異論もあると思うが、文責は編集部にある。答えにくい設問に真摯に対応頂いた回答者にお礼申し上げます。

## 小粒でもピリリと辛い、 少数精鋭の 滋賀大学経済学部を

乗富 俊二（大9）

滋賀大学卒業後の略歴を申し上げます。一九六一年四月（昭和三十六年）卒業後、東洋レーヨン（現東レ）に入社。一九六四年四月より一九六七年六月の約三年間、東レとデュポン社（米国）との合弁会社（東洋プロダクツ）に出向。一九六七年七月に東レを退社、英国のランカスター大学（修士課程）に私費留学。専攻はマーケティング。修士号（MA）取得後一九六八年十月にジレット社（米国）に入社、その後シークラム社（米国、洋酒メーカー）、ギネス社（英国、洋酒部門）に勤務し、一九九六年ギネス社を定年退職。職責は、これら外資系三社の日本法人の代表を勤めました。

勤務した国は、日本、カナダ、オーストラリアの三カ国。海外在任期間は延べ約三年間。本社所在地のNew York（シークラム社）とLondon（ギネス社）への出張回数は無数。かような職歴は滋賀大学卒業生の中では異色なものではないかと思いません。

陵水会年報平成二十七年

度(二〇一五)に記載されて

いた「平成二十六年就職

状況」の記事に興味をひ

かれました。私が卒業し

た五十四年前に較

べ、日本経済の構造も大

きく変化しました。平成

二十六年度の卒業生の

就職先企業名を見ても、

それらの企業が生涯を託

する企業なのか、また他

校の卒業生に較べて遜色

のないものなのか、判断

ができません。後輩の

皆さんが、将来性のある

優良企業に就職し、会社

・社会に貢献する人材に

育ち、我が母校の名声を

高めて欲しいと願ってお

ります。

学部(或いは学校)の評

価は、その時代に於いて

優良企業と目される会

社に如何に多くの卒業

生を送り込めるかによ

って評価がなされるの

ではないでしょうか。同

じ記事の中で小野晶生先

生が文科省通達の「国立

大学の教員養成や人文社

会学系の学部・大学院の

廃止・転換」に触れ、本

学が絶滅危惧種に指定

しました。

こういった厳しい状況

下において、我が母校

はいかにして生き残り

(survive)、発展して

行けばよいのでしょうか。



それには、他校に比べ

滋賀大学経済学部とし

ての特徴(ユニークさ)

を出す必要があります。

即ち、差別化です。それ

には、まず建学(彦根高

商)の精神に戻ることが

必要なのではないでしょ

うか。あの時代に、なぜ

高等商業学校を官立で

開校する必要があった

のか。国が意図したこと

は、即経営実務に役立

ち、将来会社経営を担

うことができ、人材(幹

部候補生・ビジネスエ

リート)を育てることに

主眼があったのではない

かと推測します。

しかし、時代の流れの

なかで他の官立の高商

とともに、我が母校も

建学の意図が薄れ、国

立総合大学の経済学部

と同質化して行っ

たのではないでしょ

うか。即ち、特徴の

無い one-of-them

になっってしまった

のです。ではどうす

れば、我が母校は

ユニークさをとりも

どせるのか。そのた

めの私案を二、三申

上げます。

一、ともかく、徹

底的にプレッシャー

をかけて勉強をさせ

るカリキュラムをつ

くる。日本の大多数

の学生(かつての私

を含む)は、勉強不

足。英米系の一流と

称される大学での

プレッシャーは、半

端ではありません。

日本では、大学受験

が厳しいためか、大

学に入學した時には

、学生は燃え尽き

症候群に陥っています。

滋賀大学の経済学部

では物凄く勉強を

させられる。との評

判が、世間(企業間)

で立てば、企業の

滋賀大学経済学部(卒業生)

に対する評価は上が

ります。ワークスア

プリケーションズ

のCEO牧野正幸氏は

、残念ながら日本の

大学を出て社会人

になっても、即戦

力になる若者は少

ない。詰め込み型

の受験勉強が優先

され、自分で考え

ながら課題をクリ

アしていく教育が

されていらないか

らだ。そのため企業

側は学生を大量に

一括採用し、自社の

研修で教育してき

た」と述べておら

れます。(日経朝刊

二〇一五・十一)

このコメントは、

学校側にとつては

大変恥ずべきこと

です。二、プレゼ

ンテーション技法

講座を設ける。

効果的なプレゼン

テーション(presentation)

を行うには、問題

の把握、その分析

、解決策の提案、

簡潔なコミュニケーション

能力(言語力)及び

Power Pointの習

得が要求されます。

準備には数多くの

参考文献を読み、

ビジネスに関する

知識や分析技術

(tools)を身につ

ける必要があります。

プレゼンテーション

能力を養うことは

、企業に入ってから

大いに役に立ち

ます。この講座は

、三回生くらい

から始めるとよ

いでしょう。また

、この講座では

ケーススタディ

(case study)を

用いますので、

思考訓練にも

なり、一石二鳥

です。牧野氏が

指摘している、

企業側の要請

にも応えうる人

材が育つと思

います。三、

経営倫理(Management

Ethic)講座を

設ける。そこで

教授と学生の間

でケーススタ

ディを通じて、



株式会社 金乃台カントリークラブ

支配人 鎌田 和美

〒300-1211 茨城県牛久市柏田町 3432

TEL 029-872-0182 FAX 029-872-3182

『今年も皆様のご来場をお待ちしております』

重要性がご理解いただけると思  
います。講座は一回限りで終わ  
らせるのではなく、繰り返し定  
期的に行うのが良いでしょう。  
小粒でもピリリと辛い、少数  
精鋭の滋賀大学経済学部になる  
ことを切望します。

## 世界でたった一冊の本

黒沢日出男（大11）

十年前の退職時、社員一同か  
ら『世界でたった一冊のこの  
本』を黒澤日出男に捧ぐ……と  
題した本を頂いた。

見開きのページに私の顔写真  
を配し、全十六ページで総社員  
の約四十パーセントに当たる八  
十二名のメッセージ・コメント  
が手書きで寄せられている。

各ページには、私が関わった  
懐かしい施工現場写真が配さ  
れ、飯野ビル・文部省・全共連  
ビルなどが掲載されている。

更に、防水ジャーナル誌（月  
刊誌）に私が投稿掲載された随  
筆、「旅あれこれ」等、また「マ  
レーシアにハマル」も転載（コ  
ピー）されている。私と最後の  
数年間仕事を共にしてパトナ  
ツチした課長Y君。「長年の勤  
続ご苦労様でした。業界団体・  
スーパージェネコン関連・施工（公

団・金融・生保）営業新規代理  
店開拓・等の業績は列記できな  
い程です。今日の私の営業ノウ  
ハウの基礎をご指導頂きまし  
て、大変感謝しております」。

黒澤日出男氏（現大阪支店  
次長）。「いろいろありがとうご  
ざいました。那覇空港はお任せ  
下さい」。技研出身の本社技術  
指導スタッフI君。「多くの功  
績を忘れません」。

最後のページには「最後に、  
黒澤日出男氏の長年のご尽力  
に、深く感謝し、尊敬の念を持  
つて、ここに我が社とウレタン  
防水の更なる発展を誓う」。

これには感動した。四十一歳  
で当時弱小だったこの会社に転  
職した労苦が報われ、社員から  
勲章を頂いた思いだ。

退職日を前に、私は社内メー  
ルで次のメッセージを『世界で  
たった一冊の本』の返礼として送  
信した。「この二十五年間、いろ  
いろな事がありました。総じて云  
えば、皆様に支えられ有意義  
で幸せな四半世紀だったと満  
足しています。送別会幹事さん  
から贈られた『世界でたった一  
冊の本』に心温まるメッセージ  
を寄せて下さった皆様から勲章  
を頂いた思いです。社員の皆様  
から頂いたこの勲章には感激し  
た。二十五年間の活動が無駄では  
なかつたと思えます。ありがとうございました。

防水ジャーナル四月号によれば、  
ウレタン防水はこの二十五年間  
で施工実績シェアが三倍、建  
築防水施工実績シェアの四分

の一を超えるまでに成長してき  
ました。当時極めてマイナーだ  
った当社及びウレタン防水につ  
き、布教活動のつもりで頑張り  
励ましあって来ました。彼等に  
は、当社の業界におけるプレス  
テージ・認知度が此処まで来た  
ことを報告したい思いです。

ウレタン防水を理解し側面か  
ら応援して下さった諸先生方は、  
様にウレタン防水の躍進を喜  
んで下さっております。そして、  
ウレタン防水を此処までリード  
し認知させてきた当社の存在価  
値を高く評価して下さっており  
ます。当社がウレタン防水を常  
にリードし今日の地位まで至ら  
しめた事実は業界人誰もが認め  
るところです。この業界におけ  
る大きな足跡は、我々社員が成  
し遂げたのです。私は社員の皆  
さんの成果を対外的にアピール  
させて貰いました。この事に、  
我々はおもつと自信と誇り持つて  
下さい。残念ながらこの五・六  
年来当社の業績は低迷を続けて  
おり残念です。いま、当社は企  
業再生の瀬戸際にあります。他  
にない優位点を生かして是非再  
生を成し遂げて下さい。在職中  
は、大変お世話になりました」。

このメッセージを送った翌々  
日、ダイフレックスグループ有  
限会社（現大阪支店）の役員  
一同が送別会をセットしてく  
れた。そこで感謝の気持ちとい  
うことで、ワインケースを贈ら  
れた。ケースに入っていたメッ  
セージには、「本日はお忙しい  
中、お時間を頂きまして誠にあ  
りがとうございました。二十五  
年間という長い間、当社を支え  
て頂きましてありがとうございます

です。本日のメンバーより黒  
澤さんに感謝の気持ちを込めて  
プレゼントさせて頂きたいと思  
います。お口に合うかどうか  
少々心配ではございますが、誕  
生月のワインをお贈りしたいと  
思います。黒澤さんは、一月二  
十三日の水瓶座のお生まれとい  
うことで、水瓶座は改革とハプ  
ニングを象徴とする星を守護星  
に持ち、未来に目を向ける素晴  
らしい科学的な推察力があり、  
社交性が豊かで常識にこだわら  
ない自由人でありました。そこ  
で、自由人黒澤さんには、太陽  
を一杯浴びたフルーツの香り豊  
かで爽やかな飲み心地と深いコ  
クを合わせ持つ一九九九年もの  
の情熱の赤ワインをお送りしま  
す。春の日差しの中で、ゆっく  
りとグラスを傾けて頂ければ本  
望です。これからの黒澤さんの  
人生がもつともつと豊かであり  
ますように」。

## 「うみやまあひだ」…日本

服部 進 (大37)

多分、この心に響くプレゼントを選びメッセージを綴ってくれたのはS i君だろう。彼とは、在職中余り接点が無かったのに誠にありがたい。優しく優秀な人材と確信した。

退職後十年を経た今年七月末、後輩社員五名と楽しい宴に誘われた。東京スカイツリー隣のソラマチタウン三十一階だった。

取締役になっていないS i君やN君を含めた後輩社員たちを、どのように呼ぶべきか迷った。役員となっている二人を含め君づけも良くないのでは? と迷ったが、成り行きで行こうと決めた。

この宴をセットし、リードしてくれたのはS u君だ。彼は私の転職時、グループのボスの存在であり、彼に本日のお誘いの謝礼を述べ、幾つに成りました? と聞くと六十三歳とのこと。

宴を終え、帰宅後メールで参加した五名に謝辞を送った。S i君から、「久しぶりに黒澤節が聞けて愉しかったです。あれから二次会を終えて帰宅電車の中です。」と返信してきた。もう、零時近くで日が変わるのに!

翌日の仕事、大丈夫だったかな?

くりぐをしたりといった仕事をして参りました。

一つの事業が、日本の森からでる、森を守るために切った木(間伐材)の利用を促進し、森をよみがえらせる仕事です。木でできたステーションナリーのブランドや、デザインと組んで木のおもちゃなどを製造販売しています。

また、和太鼓や箏、尺八、三味線、篠笛といった和楽器で構成されたユニット「A U N J クラシック・オーケストラ」の総合プロデュースをし、日本の楽器をもつて、アンコールワットやモンサンミッシェルなど世界遺産でのコンサートの仕事や、アメリカ大リーグ・ボストンレッドソックスと組んで、フエンウェイパークにてアメリカ合衆国国歌の演奏をしたりといった仕掛けをしています。

ここまで書くと、なんで映画のプロデュースをすることになったのか? という疑問がわくのではないかと思います。そうなんです、自分は、映画を仕事にしているわけではありません。あくまでも、自分の専門である「マーケティング」を、「日本を素敵だと思っていた」ために活用し、その手段の一つとし

て「映画」という方法を選んだということなんです。

この映画は、二〇一三年に行われ、森を守るために切った木(間伐材)の利用を促進し、森をよみがえらせる仕事です。木でできたステーションナリーのブランドや、デザインと組んで木のおもちゃなどを製造販売しています。

また、和太鼓や箏、尺八、三味線、篠笛といった和楽器で構成されたユニット「A U N J クラシック・オーケストラ」の総合プロデュースをし、日本の楽器をもつて、アンコールワットやモンサンミッシェルなど世界遺産でのコンサートの仕事や、アメリカ大リーグ・ボストンレッドソックスと組んで、フエンウェイパークにてアメリカ合衆国国歌の演奏をしたりといった仕掛けをしています。

ここまで書くと、なんで映画のプロデュースをすることになったのか? という疑問がわくのではないかと思います。そうなんです、自分は、映画を仕事にしているわけではありません。あくまでも、自分の専門である「マーケティング」を、「日本を素敵だと思っていた」ために活用し、その手段の一つとし

て「映画」という方法を選んだのではないかと思います。海外の皆様にとつては、一三〇〇年

の間、毎二十年ごとに、約一万人の本の檜を使って、全てを新しくする行事を続けていることや、一四〇〇年間、毎日朝晩に、水を汲み、手で火をおこし、お米を炊いて、神様に奉納するとうことをしている日本という国に、畏敬の念をいだくようです。

この反応は日本人としてとても嬉しいことです。日本人は日本のことを知らなさすぎます。この映画は、伊勢神宮をベースにしているので、とかく宗教的な映画と勘違いされることがあるのですが、日本の基本をお伝えする映画になっていると思っております。正直、公開前は、全然お客様に入ってもらえず、興行的には収益をあげるのには難しいかなと思っておりましたが、二〇一五年四月に、東京二子玉川で公開した際には、一ヶ月間満席という評価をいただきました。特に、大学生など、若い方々が見に来てくれて、感想をいただけるという経験は、プロデューサー冥利につきるな、と思っております。

仕事柄、海外で活躍されている日本人の方に多くお会いしますが、世界のことは会社で勉強

しても、実は日本のことを知らず、海外の方と話しがでさなく困る、というお話をよくいただきます。この映画が、そういう方々に少しでも役にたてればよいなと、心から願っています。もし、ご興味を持っていただいたら、公開している映画館にお越しいただくか、五月に発売が予定されているDVDをご覧いただければ幸いです。詳細は、ホームページをご覧ください。最後までお読みいただき、ありがとうございます。

<http://univamaida.jp>

服部 進

## 「私」と短歌

林 史 欣(大8)

昨年、沼津牧水会主催の短歌大会で全く久しぶりで入賞したのをきっかけに、中学生時代から未熟のままに続けて来た趣味の短歌への思いを纏めてみた。「東海の小島の磯の白砂にわれなき濡れてカニとたわむる」母の小さな本棚の中に改造社版の文庫本「啄木歌集・悲しき玩具、一握の砂」を見つけ、「トング」とは何者と、手にとつて最初に目にはいったのがこれだった。五七五七七の調べは快く口をついたが、詠われている意

味がまったく理解できなかった。そう、今でも理解できなかつた。言えない。「東海の小島」とはなにか。なぜ泣いてカニにちよつかいを掛けているのか。たつた三十一文字の中に、詰め込んだ言葉の奇怪さだった。歌の観賞力が不足なのは今日まで続いている。

「昼休み田圃の中に肥桶がただ

一つだけ残してあるかな」

歌は「かな」で終わるものと

教えてくれたのは母であった。

これを当時旺文社から出版され

たばかりの月刊誌「中学時代」

に投稿したところ、佳作入賞で

小さなメダルが贈られてきた。

読書が好きで、母の実家など

にあった文芸絵本：漱石の「坊

っちゃん」、菊池寛の「恩讐の

彼方」とか谷崎の「痴人の愛」

だとかの粗筋が絵本で書かれて

いた：を読んで、物語を創るの

も楽しいなど、新制中学発足当

時のクラブ活動で「文学班」な

るものを数人の仲間で作った。

その指導教諭が早稲田大学時代

から歌をよくして、自選歌集ま

で出した人だった。

「わが家の机の傷の大きさに流

離のおもひ消しがたきかな」

先生が選んで「村の新聞」短

歌欄に載せてくれた。歌を作る

人達には流儀の違いがあつて、その一つにアララギ派がある。長野県諏訪出身の島木赤彦の「湖の水は解けてなお寒し三日月のかけ波に映ろう」がこの派が主張している「写生」の傑作だ、と教えられた。そこで「足跡に溜まりし水が大空を乱れ飛びゆく雲を写しぬ」とやってみた。これは作者がみただけのもの、綺麗さがない、主観がないとの先生の言。「ふるさとの夕焼け恋し赤石の山並薄く赤く染めたる」これがふと頭をよぎった。齋藤茂吉「万葉秀歌」。先生に万葉を読みなさいと教えられ愛読した。同書冒頭の歌「いわ奔る垂水の上のさ蕨の萌出ずる春になりにけるかも」中学三年の修学旅行は関西地方だった。大和の姿を万葉に詠われた詩情に繋げこころ躍りをおぼえた。併せて会津八一の「鹿鳴集」が奈良の都を招きよせた。「おおらかにもろ手の指を開かせて大ききは天たらしたり」浪人時代の読書の内から、こんな歌がある。

浪人になった学友も殆ど都会に出て行き寂しい思いをした。手慰みのように国語の学習で学んだ百人一首に親しみ、古文の法則を学んだ。高校から大学そして職に就いてから定年までの間に長い歌作りのブランクの時期があった。古典として歌に接することはあったが、関心を持って楽しむとするものが沢山あったこともあり、作歌する気持ちが行方不明になっていた。しかしなにか人の記念に歌を作つて祝うことはよくあった。「よき人を定めて結ぶ生涯の誓いを共に喜びとせん」友人の妻に京都の女流歌人河野裕子氏から指導を受けていたと言う人がいて、歌は文芸の一種であれば対象をフィクションの感覚で歌うことも大切と教えられた。「伊豆の海の水平に上る厚い雲実朝こころで自らを占う」幾く山河超え去りゆかば寂しさのはてなむ国ぞ今日も旅ゆく」信州ふるさとの同級生二十人程が集まって沼津で同期会。皆で千本松公園で高らかに吟じたことは流石我等が「歌の国信濃」の同級生と感じ入った。この地

# クレド アドバイザーズ株式会社

代表取締役社長 門平 孝二郎 (大19回)

〒113-0034 東京都文京区湯島 2 - 4 - 3 - 403

TEL 03-6303-2455 FAX 03-6303-2456

E-mail : credp-ad@biscuit.ocn.ne.jp



に住む友人に紹介されて牧水歌会に入会したのが四年ほど前。大震災の起きた時詠じた

「津波さえ無ければ幸せ続いた泥にまみれた家族の写真」  
がその年の佳作に入った。

この頃初めて知った歌人に明石海人がある。沼津出身で静岡師範を出て教職にあつたが、ハルセン病を発病、瀬戸内海・長島愛生園の療養生活の中での作歌を歌集「白描」にまとめた。薄倅の身を万葉調で悲しくもたくましく詠じた。

本稿冒頭の入選歌は「亡き母のために据えたる階段の手すりに今はわが身をよせる」

八十歳に近くなると、ごく親しかった師や友人、縁者、近隣の人、などのお別れが多くなつてきた。悲しみや、別離の歌を詠もうとするが、どうも平凡に陥ってしまう。

「入選す絵画を見せんと誘いこし友逝きて悲し美術館の道」  
「一日に三度もループル訪ねてはルノアール語る友の口許」  
「三四郎」、『蜘蛛の糸』、など文学の端緒をくらし恩師今なし  
「ガンなんだ」病を電話で告げる友、いに明るく返すに悲し  
豊かな感性の瞬発力と豊富なるうとスタ

語彙で感動を率直に表現する、それが歌を作る望ましいあり方だと思つているが、感性や語彙に徹底的に不足している。ただただ不作を恥じ入るばかりである。

## 『陵水会クラブOB会 東京発信』

### 「クラブ名」

陵水ラグビークラブ東京支部

吉田 勇夫(大15)

陵水ラグビークラブ東京支部は平成二十七年現在会員数七十八名にて現役応援・親睦を中心として活動しています。(クラブ全体で三百三十三名)

### 《支部開設経緯と現状》

昭和五十年(一九七五年)秋、大卒十八回の岡田憲治、小澤和彦・十九回奥野六友・二十回田中二郎等が中心になり第一回の会合を開き、これを機会に会合と練習を定期的に開催し、他のチームと試合ができるようになるようにとスタ



ートし、埼玉県上福岡の旭化成のグラウンドで練習が始まりました。

昭和五十四年(一九七九年)十六回松永徳行さんの計らいで静岡市の安倍川河川敷のグラウンドで名古屋と東京の両陵水ラグビーが試合を決行(松永君の所属の静岡県庁ラグビー部も援助参加)、名古屋からは十三回加藤

公男、十六回鬼頭武義、十七回岩田政三等が参加され、東京陵水ラグビーは十九回濱筆治がデザインした黒無地のジャージで臨み、対外初遠征になりました。

昭和六十二年(一九八七年)七月、二十九回坂根徹・三十二回酒井康就等が中心になって、現役の夏期合宿への援助をかねての会合が開かれ、この頃から新年と夏に定期的に会合が開かれるようになり、この時の名簿は三十四人でした

平成元年(一九八九年)、六回光橋貢氏が転動してこられ、平成二年に光橋貢氏と交代に八回橋内浩太郎氏が転動されこの頃に東京陵水ラグビーのメンバーの隙間を埋めに尽力して頂き、平成四年(一九九二年)には名簿が六十七人となりました。

年新年会か暑氣払いを開催し若い世代も取り囲み、毎会二十名程の出席で親睦を深めています。

### 《現役応援》

滋賀大学経済学部ラグビー部は創立九十二年を迎え、女子マネージャーを含め総勢四十七人の部員です。九十周年(二〇一三年)の記念行事として、校庭のグラウンドを、学校側とグラウンドを使用している他のラグビーOBとの協力により全面天然芝生化に実施しました。これにより、停滞状況であった部員の募集も円滑になり、昨年度は関西リーグCリーグに昇格、今年度も新入部員が十四名になり、全部員数が四十七名と活動が活発になりました。

現役との繋がりは毎年五月に行われる「陵水ラグビー総会」にて午前中にグラウンドにてOBの東西対抗戦・OB対現役対抗試合をして汗を流し、午後は生協食堂にて総会・懇親会と総勢約二百名の参加者にて交流を深めています。又、八月には菅平高原での夏合宿に若手OBを中心に参加し、現役の指導・サポートをしています。

### 《役員名》

会長 足立貞夫(大21回)  
東京支部長 酒井康就(大32回)



# ゴルフ談義

東京陵水ゴルフ会 一〇〇回記念大会(第九十九回〜一〇一回)

川本支部長時代、箸方先輩などの発案により平成二年三月十三日、第一回東京陵水会ゴルフコンペが行われた。

それ以来、年四回のコンペが継続されてきた。平成二十七年四月十四日に第一〇〇回記念コンペと記念パーティーを開催した。

第五十五回(幹事として山本保の初回)の参加は、彦根高商卒五名、大学一回〜九回卒二十名、十回卒以降十二名であった。第一〇〇回目では、高商卒一名、大学一回〜九回卒七名、十回〜十九回卒二十八名、二十回以降二名と順調に次の世代へと引き継がれてきていることを頼もしく思う！。

一〇〇回記念大会では、一九二六年生まれ、来年満九十歳をお迎えの井口さん、一九五二年生まれ六十三歳の田口さんと実に二十六歳の年齢差を克服して、金乃台カントリーという歩き道のゴルフ場で共に楽しくまた熱い戦いが繰り広げられている！



第100回記念大会集合写真



第100回記念大会パーティー恒例の高商校歌大合唱とエール

一〇〇回記念パーティーには、発足に尽力された川本元支部長や箸方・竹内先輩達も出席され、ビール・ワイン・日本酒を飲みながら、彦根時代の思い出話やゴルフ談義など、時を忘れて和気あいあいの楽しい懇親が繰り上げられた。

この一年間も金乃台カントリークラブで、熱戦が繰り広げられた。各回の優勝者は、

- 第九十九回 蔵田昭憲(大17)
- 第一〇〇回 富田博司(大15)
- 第一〇一回 田川行雄(大9)
- 第一〇二回は豪雨のため順延となった。

下記に優勝者の授与式の喜びの写真を掲載。

- 第九十九回 蔵田昭憲
- 第一〇〇回記念大会 富田博司
- 第一〇一回 田川行雄
- 第一〇二回大会は二〇一五年十二月八日、第一〇三回は二〇一六年四月九日に開催！

## 【新規参加を希望の方 大歓迎！】

氏名・住所・電話番号・生年月日・卒業回・所属ゼミ・クラブ・ハンディキャップを下記メールアドレスにご連絡下さい。Xの次にアンダーバーがあります。山本保 yatax\_888@jcom.zaq.ne.jp



第99回

## 東京陵水会 囲碁会 便り

平成二十七年囲碁大会の実績を報告します。

●平成二十七年六月二十日(土)、全国情報サービス産業厚生年金基金会館にて開催。十二名参加

### 戦績

- 優勝 神崎栄次 五段(大3)
- 準優勝 森本忠徳 五段(大9)
- 三位 三井照次 六段(大10)

●平成二十七年十一月二十一日(土)、全国情報サービス産業厚生年金基金会館にて開催。十名参加

### 戦績

- 優勝 鈴木克治 八段(大14)
- 準優勝 三井照次 六段(大10)
- 三位 畠山義生 七段(大10)
- 鈴木克治(大14) 記

平成二十七年

## 陵水散歩会

今年度は開催日をルール化する。開催日・毎月最終火曜日・当日開催不能の場合は翌日・開催できない場合は翌月以降週し・年一回宿泊開催日程を設ける。

●二十六年十二月二十五日(水)「赤穂浪士の歩いた道・後半」

コースⅡ新橋駅～田村屋敷跡  
(長矩終焉の地) ～愛宕神社～  
青松寺～増上寺～三井倶楽部～  
イタリヤ大使館(大石主税他終  
焉の地) ～慶応大学～三田寺町  
～細川邸跡(内蔵助他終焉の地)  
～泉岳寺～品川駅

当会は第七十回散歩会。新た  
に紅一点、滋賀県柏原のご出身、  
滋賀大OBに郷愁を持つての参  
加。空気は冷たいが明るい日差  
し。京都の寺院を思わせる青松  
寺の庭園、三井倶楽部の池に映  
えた紅葉が秋を味あわせてくれ  
た。参加者九人

●三月二十五日(水)

「早春の文京区」  
コースⅡ飯田橋駅～牛天神～荷  
風生誕地～徳川慶喜屋敷跡～鳩  
山会館～新渡戸稲造旧居跡～播  
磨坂～小石川植物園～白山神社  
～白山駅

早春の快い天気。桜は七分咲  
き。東京の山手の明治を感じさ  
せる区域。邸や屋敷は見所が多  
い。植物園に帝大医学部校舎の  
遺構がひっそりと。参加者六人。

●五月二十六日(火)

「初夏の匂いを荒川に」  
コースⅡ王子駅～音無親水公園  
～王子神社～王子稲荷～王子の  
滝公園～篠原演芸場～王子富士  
神社～清水谷公園～静勝寺(太

田道灌坐像)～赤羽駅～岩淵水  
門～荒川知水資料館～赤羽駅  
北区の太田道灌に関わる史蹟  
などを巡って荒川と隅田川の分  
水堰へ行く。岩淵水門が堂々と  
構えて首都の治水に備えている  
姿が頼もしい。参加者七人。

●六月三十日(火)

「昭和記念公園と玉川上水」  
コースⅡ西立川駅～昭和記念公  
園～残堀川～天王橋～玉川上水  
沿道～流泉寺～阿豆佐美神社～  
上水沿道～国立音大～玉川上水  
駅～(モノレール)立川駅

広々と、花と森と池と丘と、  
大都会のオアシス。高い緑のト  
ンネルの中を澄んだ上水が、た  
っぷりと流れていた。鄙びた古  
社が武蔵野の中。参加者八人。

●七月二十八日(火)

「緑陰をもとめて」  
コースⅡ小金井駅～野川公園道  
～武蔵野公園～多磨霊園～浅間  
山公園～府中の森公園～(市内  
巡回バス)大國魂神社～府中駅

時には入道雲が夕立の気配を  
見せるような真つ只中の夏。緑  
が恋しい。汗が流れるが、元氣  
に風を求めて歩く。霊園の目玉  
は山本五十六元帥。「夏の墓地  
一陣の風『海往かば』」。参加  
者七人。

●九月二十九日(火)

「真間の手見奈の地を」  
コースⅡ市川駅～Iリンクタウ  
ン・タワー(四十五階展望台か  
ら東京東部と市川市が一望)～  
文学の道～真間川沿道～手見奈  
霊神堂～弘法寺～須和田公園～  
郭沫若旧宅～下総国分寺跡～同  
尼寺跡～里見公園

現代中国を代表する文化人、  
郭沫若が昭和の始め閑居。歴史  
と文学の名残がある町や通りが  
散歩に好適。参加者七人。

●十月二十七日(火)～二十八日(水)

「箱根旧道を東から西へ」  
コースⅡ箱根湯本駅～(バス)  
上畑宿～見晴茶屋～甘酒茶屋～  
元箱根～一泊(旅館むさしや)、  
翌二十八日・宿～杉並木～恩賜  
公園～関所跡～(バス)箱根峠  
～兜石休憩所～笹竹トンネル～  
山中城址～(バス)三島駅

今年計画の一泊ウォーキン  
グ。東海道箱根路を東から、箱  
根峠より西の天下の険を越える  
ことにした。バスを降りると初  
めから厳しい登りが続き、漸く  
甘酒茶屋で昼食をとって休む。

破碎されて歩きにくい石畳の道  
も、慣れてくる頃から樹間に声

の湖が見られ下り道になった。  
午後三時半ころ今日の宿「むさ  
しや」に着く。芦の湖を正面に  
望む部屋に荷を置き、箱根神社  
に山越えの安全を祈りに行く。  
一晚のコンパは賑やかに英気を  
養った。

早朝、湖面を覆った霧も宿を  
発つ頃にはすっかり晴れて、秋  
天空高しである。恩賜公園から  
芦の湖を挟んで仰いだ富士は麗  
朗として明かるかった。関所前  
から箱根峠まではバスで登り、  
峠の地を踏みしめてから三島方  
面に下ることにした。車道から  
標識に沿って旧道に入る。これ  
こそ旧道である。両側から笹竹  
が覆い被さり、火山灰土で滑り  
やすい道、石畳が破碎された石  
ゴロの道。ところどころに道の  
説明板が立つ。これこそが東海  
道古道の雰囲気であった。嘗て  
の茶屋跡を過ぎ、暫くして山中  
城址に着いた。後北条氏が秀吉  
の進軍を防ごうと山の谷や尾根  
を盛ったり掘ったりして構築し  
た防衛陣地。三島市が富士を望  
む公園として景観良く綺麗に整  
備した。既に午後一時半も過ぎ  
空腹が辛くなる。バスで四十分  
程かかって三島駅に着いた。参  
加者六人。

●十一月二十四日(火)

「池袋・地藏通り・駒込の秋」  
コースⅡ駒込駅～豊島区役所～  
造幣局博物館～巢鴨地藏通り～  
高岩寺～本妙寺～慈眼寺～染井  
よしの発祥地～西福寺～駒込駅  
新築なった区役所の十階から  
四階まで巡るテラスが面白い。  
由緒ある寺々に著名人が眠って  
いた。参加者五人。

お報せ 陵水散歩会はいつでも  
門戸を開いています。メールア  
ドレス [hyscky@nifty.com](mailto:hyscky@nifty.com) へ  
ご連絡頂ければ、直近の開催情  
報をお送りいたします。

林史欣(大8)記



7月28日会・大國魂神社

# 新陵会

## 詩吟の会 新陵教場

昨年「東京陵水」一〇一号で紹介いたしました詩吟の会・新陵教場は、大卒七回の鈴木重成氏が会長の千代田岳精会（会員三百名超）に所属し、昨年十三名であった会員が二十二名にまで増えました。昨年央、本科二十一回の井口博民氏が入会され、ますます会員の幅が広がってきました。

先号で紹介しました会員も含め、全員は以下の通りです。（卒回順）

井口博民（本21）、鈴木重成（大7）、浦谷政夫（大7）、西野宏（大7）、田川行雄（大9）、西坂徹雄（大9）、藤江忠正（大9）、中川寿一（大10）、堀内和（大12）、



新陵会

宮野幸雄（大12）、小林三郎（大13）、加藤博善（大14）、柴田豊彦（大16）、木戸彪（大16）、滋野輝彦（大17）、小梶清司（大18）、中村嘉秀（大18）、和田博之（大19）、竹森二郎（大19）、青木美憲（大20）、脇阪守（大21）、岩崎博之（大27）

練習は、月三回、第一、第二、第四木曜日の十一時から二時間、新宿駅西口前の明治安田生命館で行なっております。

二時間の教室での練習はもとより、練習後、近くで昼食を兼ねての一杯会に和やかで楽しいひと時を持っています。

入会ご希望の方は右記の会員または、浦谷政夫（大7）

ZAT16132@nifty.com  
049-261-5508 まづお申し出下さい。

なお、ネットで「岳精流日本吟院」を検索下さい。流統の概要がご覧いただけます。

浦谷政夫（大7）

## 東京陵水会計人会

### 新年会開催

東京陵水会計人会・新年会開催を平成二十七年一月二十日、「神楽坂もん」にて開催しました。今年の新年会は十名が集まり、参加者は星出潔（大13）岡田憲

治（大18）稲野辺敬義（大19）長井和夫（大22）御旅屋尚文（大24）上田信子（大29）久野康成（大37）松澤進（大38）北尾聡子（大45）木村繁（大46）の皆様です。高木早苗（本24）深田睦子（大26）笠浪真（大48）の皆様は、残念ながら、御都合により参加できませんでした。

平成八年七月十八日、第一回開催世話人の一人である稲野辺敬義さんが久しぶりで参加され、公認会計士事務所長、税理士事務所長、社外監査役、団体監事、経営再建コンサルタント、協同組合理事長、監査法人所属公認会計士、等の皆様からの近況報告と共に貴重な話が聴け、今年も有意義で楽しく美味しい充実した新年会でした。

岡田憲治（大18）記



会計人会

エレベーター等、輸送機械の営業、設計、製造、据付  
保守サービス、モダニゼーションに関する全業務



# 守谷エレベーター

ISO9001 認証取得

## 守谷輸送機工業株式会社

代表取締役社長 守谷 貞夫(大12回)  
田村 寿夫(大12回)

本社・第一工場 〒236-0004 横浜市金沢区福浦1-14-9 TEL(045)785-3111 FAX(045)780-1881  
東京支店 〒104-0032 東京都中央区八丁堀3-12-8八丁堀SFビル7F TEL(03)6228-3460 FAX(03)6228-3350

大阪支店 福岡支店 宇都宮工場 名古屋支店 札幌出張所 上海守谷電梯有限公司

## 東京五陵会 金沢市内観光と 和倉温泉一泊

平成十四年から続いている恒例の東京五陵会一泊の旅、今回（平成二十七年十月二十二日～二十三日）は今春営業運転を始めた北陸新幹線で、加賀百万石の城下町で歴史的文化遺産の多い金沢市を訪ねることにした。

東京発の九時三十分の「かがやき五〇七号」は大宮駅を出ると、途中長野・富山両駅に停車するのみで金沢駅には十二時六分に到着。長野駅を過ぎるとトンネルが多いが、富山駅を過ぎると雄大な立山連峰の雄姿が眺められ、目的地への所要時間が二時間三十分と短いのが魅力である。昼食には少し早いですが、時間の節約で車内で済ますことにした。

金沢駅では関西から参加してくれた近藤君と合流、まずは日本三名園の一つ、兼六園（金沢城外郭にあり、前田家五代藩主綱紀により別邸として作られた庭園を歴代藩主が整備拡張して完成した）を訪ねた。園内では早くも冬支度の雪吊り作業が始

まっていた。新幹線効果で広くなった駅構内や、市内各所は観光客で溢れていた。交通手段は市内観光エリア内を、一日五百円で乗り降り自由のバスが頻繁に走っていて、我々もこれを利用。

この日の観光は兼六園のみで、金沢近郊には山中、山代、粟津、片山津と温泉地が数多く存在するが、我々は能登半島中央に位置した和倉温泉に一泊することにして、再び特急列車で宿泊地に向かった。宿（美湾荘）は七尾湾に面した好立地にあり、部屋からは宿の名の通り夕陽に映えた美しい海が眺められ、プライベートビーチには釣り人がいた。早速に入浴しての夕食会では、特別にステージ付の和室が手配してあり、宴後半には近藤君の十数年技術を磨いてきた手品の披露があって、会を賑やかに盛り上げてくれた。部屋での二次会には、夕食時世話をしてくれた仲居も加わって話題は豊富に、彼女が引き揚げた後には、これも決めての就寝となった。

翌二十三日は短時間温泉街を散策した後、再び金沢に戻って北陸一の規模を誇る近江町市場内で、新鮮な魚介類での昼食を

堪能した。午後は金沢の紹介ではしばしばテレビ放映される「ひがし茶屋街」（出格子のある古い街並には和菓子や小物などの土産物店が並んでいた。）や「主税町茶屋街」を訪ね、更に足を延ばして「長町武家屋敷跡」を観光して金沢駅に戻った。駅で近藤君とは別れて、東京組は「かがやき号」で帰路に着いた。参加者は石橋、市木、岡田、近藤、中川、中西、樋上、久木、龍口の九名で昨年より一名少なかった。この二日間八十歳を過ぎたメンバーにはいささか強行軍だったが、来年も続けようとの元気な声あり、皆それぞれに健康管理には気を付けて続けていきたいものだ。

龍口秀夫（大5）記



## 大8同期会 二十七年十月五日 「彦根かんぽの宿」 に於いて開催

三年ぶりの再会だ。三年ごとに、関西、名古屋、東京と世話人が順送り巡るルールを定めて丁度十回目。東京地区担当の開催となった。

開催定刻前から出席予定の四十三名が出足良く開催場所彦根かんぽの宿にそろい、写真撮影も手際よく進み。予定の開催時間十二時三十分より五分早く開会した。

司会は並川淳君。開会の挨拶を池田辰彦君が述べる。今回の世話役東京地区世話人を代表して、小森清美君が開催まで情報を交換し、関係者と細かく打合せをしてこぎつけた経過を報告する。「御苦労さまでした」。

物故者への黙祷。大8期として卒業した同期生は陵水会名簿上一七一名。今日までに三十九名が逝去された。

陵水会本部評議員の松浦幸作君が母校の現状と動向を新学部設立の動きと併せて報告した。司会の並川君から今後の当同

期会の開催方法について提言があった。従来の形、三年ごとに、関西、名古屋、東京と世話人が順送り巡り、彦根で開催のルールをこのまま維持するか。二年後には全員が八十歳になり、次第に参加者が減るのは明らかである。そこで結論として二年後に開催と時期を設定するが、内容については関西地区の幹事が中心になって検討する。

二部に入って懇親会となる。司会を松浦君。乾杯は酒井通夫君と林隆一君の発声。松浦君が出席者個々に、マイクを手にして席を廻り発言を聴取。一時間半近くにわたって趣味、健康、本人だけが知りうる情報、当面の日々などを語り賑やかに進められた。

酒井君、池田（辰）君の指揮で琵琶湖周航の歌、徳聖寮寮歌が元氣よく唄われ、門野久義君・林史欣君の閉会の言葉と一本締めで、またの逢う日を期待しつつ、午後三時に予定通り閉会となった。

東京地区からの参加者は次の諸君。（敬称略）津須利夫・小森清美・大島明美・松岡健雄・尾本政二・奥井繁男・林史欣・松浦幸作・池田辰彦・酒井通夫・並川淳。（大8 林史欣）

大学十八回（昭和四十五年卒）  
**同期会開催**

大学十八回同期会を四月十七日、東京駅八重洲南口「八重洲海賓亭」にて開催しました。

東京支部総会の当番幹事を契機として同期会を六人で開催してから十一年経ちました。同期会の案内先数も五十名になりました。毎年四月十八日（今年は十七日）に開催しています。

今年には十五名の懐かしい顔ぶれが集まりました。近況報告を一人づつ行いました。一巡する頃には程良くお酒もまわり、四十余年前の彦根某所で酒宴と同じ状況が再現されていました。

同期で会おうということから、ゴルフ、ハイキング、昼食会等のいろんなアイデアが出て今後ますます楽しい同期会になりそうです。

東京支部の諸活動について、同期会にとどまらず、十八回卒の関わりがこれからますます期待されるようになるので積極的に参加しようとの呼びかけがありました。今後同期の輪が広がります。

同期会参加者は以下の通り。  
（敬称略）、今津松雄、岡田憲治、

小倉好博、兼松泰男、北居和夫、喜田峯幸、栗原喜代次、小梶清司、澤田 勉、高居建二、田中 和男、徳山秀雄、中村嘉秀、森紀正、吉村政彦。

中村嘉秀（大18）記

大学十五回（昭和四十二年卒）  
**同期会開催**

桜花散り始めの四月十二日、彦根ホテルサンルートにて東京地区有志の幹事のもとに第十五期同期会が開催されました。

「人生七十古来稀なり」全員が古希を過ぎ、卒業後半世紀をそれぞれ歩んできた六十二名が日本各地から、又遠くは空路オーストラリアから室殿智秀氏も

参集し盛会に行われたました。物故者への黙祷の後、出席者の乾杯が行われ、その後、学生時代の思い出話や、現況の交歓など和やかな雰囲気にもつま

がらの数時間でした。司会者の平本勝章氏の名司会のもと初参加者七名（香川修司氏、吉田浩三氏、人見寿旦氏、伊藤勝利氏、三好利秋氏、高作敬一氏、北川淳也氏）や、久し振りの参加者の現況報告のスピーチや童心に帰ってのじゃんけん大会の盛り

上がり、あつという間に時間が過ぎて行きました。又飛び入りでグリーンクラブOBによる「遙かな友に」の合唱も行われ、当初、名前と顔が一致しなかった

面影を思い出したりしたようで、すっかり意気投合する場面も見受けられました。黒田悦司氏より自著「理念の時代を生きた」の本も参加者全員に贈呈されました。

一次会の後、場所を和室に移しての二次会が行われ、アルコ

**彦根コンフィデンスヤル**  
—滋大陵水新聞会—

●ウインドサーフィン部

全国三位

ウインドサーフィンの学生全国大会である「全日本学生ボーディング選手権大学対抗戦」で本学ウインドサーフィン部が三位入賞を果たした。

創部以来の最高スコアが今年と同じ全国三位であることから、この記録を塗り替えることが現在の活動目標となっている。

●スキー教室開講六十周年  
「スポーツ科学Ⅱ」の一環で

●経済学部フォーラム開催

七月二日、彦根キャンパス内において、今年三月まで本学教員であった大川良文教員（現…京都産業大学教授）と柴山桂太教員（現…京都大学大学院准教授）による講演会が行われた。

両教員はダニ・ロドリック著『グローバリゼーション・パラドックス：世界経済の未来を決める三つの道』の共訳者であることから、「グローバリゼーションの過去と未来 国家と民主主義に何ができるのか？」というテーマで講演が行われ、その後には本の内容や両教員の主張についてなど、フロアの教員や学生と活発な意見交換や質疑応答がなされた。

●成績優秀者インタビュー

全学生の約三%にあたる成績優秀者に対し、六月十七日に小倉経済学部長より表彰が行われた。その一人である飯田啓統さん（情報管理学科二回生）は、良い成績を修めるために「先輩や友人たちと講義やテストの内容に関して共有することで互いに切磋琢磨した」と述べた。

（注）号数は滋大陵水新聞平成二十七年発行号数  
（滋大陵水新聞会 中塚裕哉）

平成二十七年年度会費納入者

(十一月末現在)

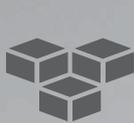
- 石垣 康 井上善隆 白井 健 佐藤秀孝 田中俊男 坪田清六 中川 孝一 中澤龍彦 島山義生 服部全孝 細谷 孝三 井照次 山田進 橋本正道(大10)、天野正保 川合久嗣 関 恵文 野一色公平 法橋 正虎 松浦紀久雄 川北直行 小林 貞夫 松本隆一 池田俊明(大11)、稲邑明也 守谷貞夫 田村寿夫 平居俊雄 堀内 和 堀川幸夫 宮野 幸雄(大12)、朝比奈冬雄 吉田久典 若山 忠 小林三郎 近藤達也 中村奎吾 納堂秀樹 星出 潔(大13)、天木國夫 石田昭郎 葛山 薫 中村 弘 名口幸夫 小口 晃 加藤博善 北村 徹 古山捷二郎 土井健一郎 古川浩司 丸居 裕(大14)、穂山祥夫 海老 洋 大澤 義隆 奥村勇雄 木下英男 黒田悦司 鈴木 勝 柘野茂樹 鶴見芳吉 富田博司 藤井駿治 細江譲夫 前田哲頭 山本 保 吉田勇夫 中沢 武昭(大15)、木津勝治 木戸 彪 嶋多 優 浜口栄治 渡邊雅利 柴田豊彦(大16)、池ヶ谷吉人 岡本 和之 川崎憲夫 蔵田昭憲 栗林 昭 滋野輝彦 柴原良昭 柘 治三 中根昌孝 並河日出夫 西尾郁夫 山本節夫(大17)、市岡隆治 岡田 憲治 兼松泰男 小倉好博 影山哲也 栗原喜代次 小槻清司 田中和 夫 千葉 茂 徳山秀雄 中村嘉秀 西川清悟 村瀬尚文 今津松男(大18)、井上博之 岡 廣司 小野孝史 門平孝二郎 小山久照 坂野友之 竹森二郎 田辺 徹 寺井与利 雄 土井利明 永田 修 西澤弘行 西村穂積 浜 筆治 平田雅章 宮 川 誠 村上 等 山崎竹夫 和田 博之 奥野六友 芝田吉典 中村達夫 芝田隆行 松野澄男 吉延秀明(大19)、岩谷克敏 上田 求 植田 荒木俊雄 上田信子 片山妙子 牧 野 武(大29)、浅野卓矢 磯野和 角 大江康浩 武田吉史 野村孝治 舟橋伸夫 吉田繁喜 和田昌信 横江正行 藤坂祐宏(大30)、檀上 史明 渡部 一 藤井 登(大31)、 木克彦 青山 登(大32)、今田 淳 清塚 徳 西野忠宏 藤井正之(大33)、岡武俊雄 加藤 篤 島津 泰幸 当野実樹夫 丸山貴宏(大34)、清水範之 能登英彦(大35)、 久野康成 鈴木伸彦 藤井 雅 高 木尚久 福井智春 河合克典(大37)、大原孝明 小川 伸 岸野正 史 北川昌樹 松澤 進 柴田敬三(大38)、原 弘 蒔田英一郎 宮本 淳司(大39)、立木賢一 山本将之 山本真嗣(大40)、畑瀬英樹(大41)、 小笠原史人(大43)、飯塚志郎 北 尾聡子(大45)、森田徳康 本田浩 一(大46)、坂上祐次(大47)、弥田 有(大48)、高田大樹(大49)、鈴 木 裕 長谷部祐一朗 湯浅信介(大50)、秋山直登 岸 達也 平 大輔(大51)、松江大輔(大53)、戸 田友香(大55)、伊勢健二郎 中島 智孝 湯浅友枝 松田慎佑(大57)、 秋山友歌 中村早織 濱田英嗣(大58)、名村摩利那(大61)、堀 彰宏 片山裕太 中島 哲 山内玄男(大62)、清水俊彦(短4)、北澤勝太郎(短5)、日高信次(短9)、深澤佳洋(短17)
- 寄付金提供者(卒年次略)
  - 柏淵健三 津田俊一 乗富俊二 守谷貞夫 中村達夫 公文信太郎 鈴木平蔵 西以久夫 一円正之 岩崎博之 木戸博文 中野達也 武田吉史

編集室 所感

平成二十九年年度から新設される「データ・サイエンス」学部に対する期待は、母校の未来を悩ましく思う全陵水会員が持ち合わせていることだろう。そこで東京支部の範囲でアンケートスタイルにより一部の会員から感想を持ち寄って貰った。データ・サイエンスなるものの具体的な学び方になると、考え込んでしまうことが多いようだ。我が国にとって先進的な「学び」が、社会的に素早く受け入れて貰うことを望んでいる。

発行が迫ってくると編集スタッフは今号はどれだけのボリュームで仕上げるか、見込みが違うと大慌てになるのは何時ものこと。調整に手間取ることが多い。折角の力作も紙面工作上、割愛させて戴くこともしばしば。今号では黒沢さんから戴いた実感のこもった記事に手を入れさせて戴いた。

編集スタッフも今や高齢化進行中。文字から電子通信へと世の中は少しづつ向かっていくが、文字による伝達方式は心に訴えるものがある。(H)



ITシステム性能管理のエキスパート

# 株式会社 アイ・アイ・エム



性能管理ソフトウェア「ES/1 NEOシリーズ」と専門SEの手厚いサポートにより  
「システムの安定運用」と「コスト削減」のお手伝いをいたします

代表取締役社長	小野 孝史(大19回)
営業本部東日本営業部 部長代理	森山 哲臣(短41回)
営業本部東日本営業部 マネージャ	田村 峰子(大51回)
営業本部東日本営業部 マネージャ	中村 早織(大58回)
営業本部東日本営業部	樽井 彩花(大61回)



特長

1. IoT時代に魁た製品ラインナップ
2. 豊富な導入実績
3. 創立から28年、競合製品なし

性能管理の理想をカタチに、  
理想を実現する会社

URL <http://www.iim.co.jp>

本社	〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-20 本郷センタービル	TEL:03-5684-6771(代)	FAX:03-5684-6845
大阪支店	〒531-0072 大阪市北区豊崎3-2-1 淀川5番館	TEL:06-6359-5750(代)	FAX:06-6359-5751
中部営業所	〒460-0008 名古屋市中区栄2-2-17 名古屋情報センタービル	TEL:052-220-2977(代)	FAX:052-220-2978

駐車場の総合コンサルティング

## 日本駐車場開発株式会社

(東証一部上場 証券コード2353)

東京都千代田区丸の内1丁目5番1号 新丸ノ内ビルディング

〒100-6510 電話 03-3218-1900

取締役副社長 川村 憲 司 (大37回)

東京・築地市場近くの本格串あげとワインのお店

## 串あげ 花村

〒104-0045 東京都中央区築地 2-14-1 新井ビル 1F 電話 03-3545-8765

オーナー 川村憲司 (大37回)

発行所  
〒236-0004  
横浜市金沢区福浦1-14-9  
守谷輸送機工業(株内)  
陵水会東京支部 支部長 小椋清司  
電話045(785) 3716  
印刷所  
〒110-0015  
東京都台東区東上野1-28-3  
船舶印刷(株)  
電話03(3831) 4181

林 史欣 (大8回)  
〒164-0014  
中野区南台2-15-10  
(TEL・FAXとも)  
03(3381) 4431  
※編集室のメールアドレスは  
hysckys@nifty.com  
(次号分、切日十月末日)

「会報」原稿・情報「送付先



陵水会東京支部

ホームページアドレス

<http://www2.ocn.ne.jp/~ryousuit/>